

消化器がん由来のがん幹細胞の制御機構の解明

1. 研究の対象

2008年12月1日以降に国立がん研究センターで大腸がん、膵がん、肺がん、胆管がん、卵巣がんの治療を受けた方、又は共同研究施設で卵巣がん（北里大学、新潟大学、帝京大学）、子宮体がん（新潟大学）、乳がん（東京大学、金沢大学）、胃がん（帝京大学）の治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

最近の報告では、がん組織中にごん幹細胞と呼ばれる細胞が存在し、このような細胞が、腫瘍形成や転移を引き起こす能力の源であることが解ってきました。そこで、大腸がん、膵がん、卵巣がん、乳がん患者さんの手術検体から、正常幹細胞及びがん幹細胞を培養し、種々の細胞生物学的な解析を行い、がん幹細胞を標的とした治療法の考案に役立てる事を目的とします。

研究の流れとしては、国立がん研究センターの患者さんから、手術で切除した病気の部分の組織の残りなどの診療後の残余試料と、病理診断や治療内容などの病気に関する臨床情報、の2点を提供して頂き、本研究を行います。この他、共同研究施設から集めた標本、臨床情報も匿名化された状態で受け入れ、国立がん研究センターで分析します。標本の一部は、愛媛大学医学部附属病院先端医療創生センター)にて、匿名化された状態で送られ分析されます。

研究方法としては、対象となる手術検体を幹細胞の生育に適した条件で培養し、細胞の特性を調べる様々な研究、解析を行うとともに、手術検体を用いたがん組織の詳細な解析を行います。解析手法としては、インビトロ細胞培養、フローサイトメトリー、病理組織解析、シングルセル解析による遺伝子発現解析や変異解析、マウス移植腫瘍、細胞生物学的解析や、各種生化学的解析を行います。これによってがん幹細胞を標的とした新しい検査法や治療法を作るための基礎知識を得る事ができると考えられます。又、がん幹細胞を標的とする化合物の探索も行います。

研究実施期間：愛媛大学医学部附属病院長の承認日から令和9年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、化学療法の治療歴、再発情報等

試料：手術、内視鏡で摘出した組織、腹水等の滲出物

4. 外部への試料・情報の提供・公表

外部共同機関へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、国立がん研究センターの研究責任者が保管・管理します。又、研究の実施によって得られたデータの一部は、公的データベースへ登録されます。データベースへの登録により、国内外の研究者がデータを利用することが可能になるので、病気の診断や予防、治療等をより効果的に行うために役立てられる事が期待されます。公的データベースからのデータの公開では、国内の研究機関に所属する研究者だけではなく製薬企業等の民間企業や海外の研究機関に所属する研究者もデータを利用する可能性があります、国内法令に沿って作成されたガイドライン等に準じた利用が求められます。

5. 研究組織

国立がん研究センター 関根 圭輔
新潟大学 吉原 弘祐
埼玉医科大学 三谷 幸之介、井上 聡、宮崎 利明
東京大学 東條 有伸
金沢大学 後藤 典子
帝京大学 木戸 浩一郎、深川剛生、塚本和久、岡本 康司
順天堂大学 洲崎 悦生
愛媛大学 塩川大介
第一三共株式会社 本間 大輔
株式会社 島津製作所 尾島 典行
大鵬薬品工業株式会社 大久保 秀一
広島大学 菊池 裕
東京理科大学 椎名 勇
大阪大学 松田 史生、飯田順子
大日本住友製薬株式会社 清水 崇史、加藤 大輝
東京大学大学院新領域創成科学研究科 鈴木 穰

6. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。
この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

愛媛大学医学部附属病院 先端医療創生センター 塩川 大介
〒791-0295 愛媛県東温市志津川 454
TEL 089-955-9561 / FAX 089-960-5052

研究代表者

国立がん研究センター研究所
分子薬理研究分野
関根 圭輔